

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年8月11日

【四半期会計期間】 第16期第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 株式会社三菱ケミカルホールディングス

【英訳名】 Mitsubishi Chemical Holdings Corporation

【代表者の役職氏名】 執行役社長 越 智 仁

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号

【電話番号】 (03)6748-7115

【事務連絡者氏名】 経営管理室 持 田 理
グループマネジャー
コーポレート・ガバナンス室 山 上 直 也
グループマネジャー

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号

【電話番号】 (03)6748-7115

【事務連絡者氏名】 経営管理室 持 田 理
グループマネジャー
コーポレート・ガバナンス室 山 上 直 也
グループマネジャー

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第15期 第1四半期 連結累計期間	第16期 第1四半期 連結累計期間	第15期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上収益	(百万円)	916,357	722,737	3,580,510
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	66,566	20,408	122,003
四半期(当期)利益	(百万円)	48,891	8,231	86,560
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益	(百万円)	37,849	5,170	54,077
四半期(当期)包括利益	(百万円)	510	21,361	475
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益	(百万円)	1,984	12,555	6,664
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	1,353,372	1,165,540	1,170,222
資産合計	(百万円)	5,509,917	5,134,657	5,132,149
基本的1株当り 四半期(当期)利益	(円)	26.66	3.64	38.08
希薄化後1株当り 四半期(当期)利益	(円)	24.56	3.39	35.21
親会社所有者帰属持分比率	(%)	24.6	22.7	22.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	103,707	70,118	452,003
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	47,344	22,726	87,563
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	109,097	72,277	450,523
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	259,465	393,559	228,211

(注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上収益には、消費税等は含まれておりません。

3 上記指標は、国際会計基準(以下「IFRS」といいます。)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

4 売上収益及び税引前四半期(当期)利益は、継続事業の金額を表示しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び当社の関係会社)の事業の内容に係る重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当社グループが当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

業績全般

当社グループの当第1四半期連結累計期間における事業環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、自動車用途を中心に需要が低迷するなど、依然として厳しい状況が続いています。

このような状況下、売上収益は7,227億円（前年同期比1,937億円減）となりました。利益面では、コア営業利益は150億円（同551億円減）、営業利益は237億円（同462億円減）、税引前四半期利益は204億円（同462億円減）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は52億円（同326億円減）となりました。

(単位：億円)

		前第1四半期 連結累計期間 自2019年4月1日 至2019年6月30日	当第1四半期 連結累計期間 自2020年4月1日 至2020年6月30日	増減額	増減率(%)
継続 事業	売上収益	9,164	7,227	1,937	21.1
	コア営業利益（注2）	701	150	551	78.6
	営業利益	699	237	462	66.1
	税引前四半期利益	666	204	462	69.3
	継続事業からの四半期利益	484	82	402	83.0
非継続事業からの四半期利益		5	-	5	100.0
四半期利益		489	82	407	83.2
	親会社の所有者に帰属する 四半期利益	378	52	326	86.3
ナフサ（円/KL）（注3）		45,400	25,000	20,400	
為替（円/\$）（注3）		109.7	107.4	2.3	

- (注) 1 当社グループは、IFRSに基づいて、要約四半期連結財務諸表を作成しております。
2 コア営業利益は、営業利益（または損失）から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出しております。
3 それぞれ、2019年4月～2019年6月、2020年4月～2020年6月の平均

各セグメントの業績

各セグメントの売上収益及びコア営業利益の状況は、以下のとおりです。

(単位：億円)

セグメント	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		増減額		当第1四 半期連結 累計期間 コア 営業利益
	売上収益	コア 営業利益	売上収益	コア 営業利益	売上収益	コア 営業利益	
機能商品	2,766	195	2,252	100	514	95	132
ケミカルズ	2,841	206	1,811	161	1,030	367	194
産業ガス	2,086	211	1,829	135	257	76	83
ヘルスケア	1,079	93	1,002	88	77	5	27
その他	392	19	333	20	59	1	0
全社及び消去	-	23	-	32	-	9	0
合計	9,164	701	7,227	150	1,937	551	382

新型コロナ
影響(概算)

- (注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。
 2 当第1四半期連結会計期間より、一部の事業及び連結子会社の所管セグメントを見直しております。これに伴い、前年同期実績を組み替えております。

<コア営業利益 増減要因>

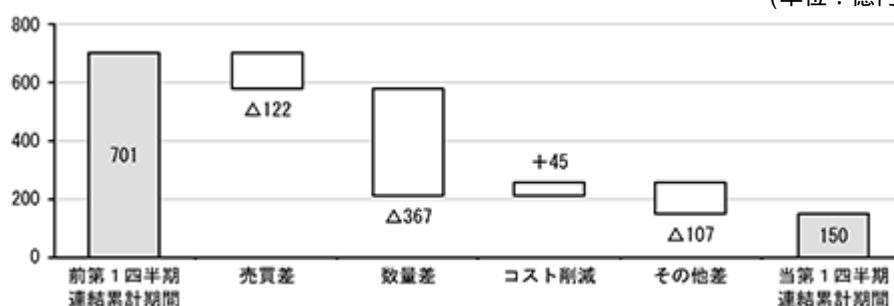
(単位：億円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減	増減の内訳			
				売買差	数量差	コスト 削減	その他差 (注)
全社	701	150	551	122	367	45	107
機能商品	195	100	95	0	145	16	34
ケミカルズ	206	161	367	103	93	3	174
産業ガス	211	135	76	6	75	1	8
ヘルスケア	93	88	5	30	51	25	51
その他 ・調整額	4	12	8	5	3	0	10

- (注) その他差には、受払差の前第1四半期連結累計期間(2億円)と当第1四半期連結累計期間(153億円)の差155億円及び持分法による投資損益の前第1四半期連結累計期間(50億円)と当第1四半期連結累計期間(2億円)の差額48億円等の金額が含まれております。

為替影響	9	12	1	-	4
内、換算差		7			

(単位：億円)



セグメント	前第1四半期連結累計期間から当第1四半期連結累計期間への主なコア営業利益の増減要因
機能商品	数量差：自動車用途を中心に需要が低迷し高機能エンジニアリングプラスチック・機能性樹脂等の販売数量の減少等により減益。
ケミカルズ	売買差：MMAを中心に市況下落に伴う原料と製品の価格差縮小により減益。 数量差：減販及び石化における定期修理の影響により減益。 その他差：原料価格下落に伴う受払差損等により減益。
産業ガス	数量差：国内外の需要が総じて減退したこと等により減益。
ヘルスケア	数量差：国内医療用医薬品の減少等の影響により減益。 コスト削減・その他差：新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動自粛等による販売費や研究開発費の使用減少。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績の概要は、以下のとおりです。

イ 機能商品セグメント（機能部材、機能化学）

当セグメントの売上収益は2,252億円（前年同期比514億円減）となり、コア営業利益は100億円（同95億円減）となりました。

機能部材においては、自動車用途を中心に需要が低迷し、高機能成形材料の高機能エンジニアリングプラスチック等の販売数量が減少したことにより、売上収益は減少しました。

機能化学においては、高機能ポリマーの機能性樹脂をはじめとして、総じて自動車向けの販売数量が減少したことに加え、フェノール・ポリカーボネートチェーンにおいて定期修理の影響により販売数量が減少したことにより、売上収益は減少しました。

当セグメントのコア営業利益は、高機能ポリマーのフェノール・ポリカーボネートチェーンにおける定期修理の影響に加え、高機能成形材料の高機能エンジニアリングプラスチックや高機能ポリマーの機能性樹脂をはじめとして、総じて自動車向けの販売数量が減少したこと等により、減少しました。

当第1四半期連結累計期間に当セグメントにて実施または発生した主な事項は、以下のとおりです。

- ・三菱ケミカル(株)は、コンタクトレンズ原料や抗菌剤などのケイ素化合物、半導体プリカーサー等に用いられる金属化合物等の領域において、高度な分子設計・合成技術を保有するジェレスト社（本社：米国・ペンシルバニア州）を買収することを2020年4月に決定しました。同社の広範な知見と、三菱ケミカル(株)の技術、経営資源、顧客ネットワーク等を組み合わせることで、提供可能なソリューションの大幅な拡充を目指します。本年中を目途に同社の全株式を取得する予定です。

ロ ケミカルズセグメント（MMA、石化、炭素）

当セグメントの売上収益は1,811億円（前年同期比1,030億円減）となり、コア営業利益は161億円の損失（同367億円減）となりました。

MMAにおいては、需要が弱含んで推移する中、MMAモノマー等の市況が下落したことにより、売上収益は減少しました。

石化においては、エチレンセンターの定期修理の影響が拡大したことにより販売数量が減少したことに加え、原料価格の下落等に伴い販売価格が低下したことにより、売上収益は減少しました。

炭素においては、原料価格の下落等に伴う販売価格の低下及びゴークス等の需要減退に伴う販売数量の減少により、売上収益は減少しました。

当セグメントのコア営業利益は、MMAモノマー等の市況下落、石化製品における定期修理の影響拡大及び原料価格下落に伴う在庫評価損の発生、炭素製品において原料と製品の価格差が縮小したこと等により、減少しました。

ハ 産業ガスセグメント（産業ガス）

当セグメントの売上収益は1,829億円（前年同期比257億円減）となり、コア営業利益は135億円（同76億円減）となりました。

産業ガスにおいては、エレクトロニクス関連向けガスが堅調に推移したものの、国内外の需要が総じて減退したことにより、売上収益及びコア営業利益はともに減少しました。

ニ ヘルスケアセグメント（ヘルスケア）

当セグメントの売上収益は1,002億円（前年同期比77億円減）となり、コア営業利益は88億円（同5億円減）となりました。

医薬品においては、薬価改定等の影響による国内医療用医薬品の減少等により売上収益は減少したものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動自粛等による販売費や研究開発費の使用減少により、コア営業利益は前年同期並みとなりました。なお、ノバルティス・ファーマ社（スイス）に導出した多発性硬化症治療剤「ジレニア」のロイヤリティ収入については、2019年2月に仲裁手続きに入ったためロイヤリティ収入の一部について、IFRS第15号に従い売上収益の認識を行わないこととしました。当第1四半期連結累計期間におきましても、仲裁手続きが継続しているため、ロイヤリティ収入の一部について、売上収益の認識を行っておりません。

ホ その他

その他部門においては、売上収益は333億円（前年同期比59億円減）となり、コア営業利益は20億円（同1億円増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

（単位：億円）

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,037	701
投資活動によるキャッシュ・フロー	473	227
フリー・キャッシュ・フロー	564	928
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,091	723
為替換算差等	93	3
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,595	3,936

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期利益や減価償却費に加え、原料価格の下落等による運転資本の減少などにより、701億円の収入（前年同期比336億円の収入の減少）となりました。

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形資産の取得が605億円あったものの、手元運用資金を圧縮したことや有形固定資産の売却等により、227億円の収入（前年同期比700億円の収入の増加）となり、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フロー）は、928億円の収入（前年同期比364億円の収入の増加）となりました。

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローにおいては、田辺三菱製薬(株)の株式の追加取得で954億円、配当金の支払いで224億円を支出したものの、新型コロナウイルス感染症の影響による不測の事態への備えも含めて社債及び借入金で資金調達を行った結果、有利子負債の増加による収入が1,904億円となり、財務活動によるキャッシュ・フローは、723億円の収入（前年同期比1,814億円の収入の増加）となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物残高は前連結会計年度末に比べて1,654億円増加し、3,936億円となりました。

(3) 財政状態

(単位：億円)

	前連結会計年度	当第1四半期連結会計期間
資産	51,321	51,347
負債	36,813	36,875
(内、有利子負債)	23,881	25,876
資本	14,508	14,472
親会社所有者帰属持分比率(%)	22.8	22.7
ネットD/Eレシオ (注)	1.79	1.88

(注) ネットD/Eレシオ = ネット有利子負債(*1) / 親会社の所有者に帰属する持分

(*1) ネット有利子負債 = 有利子負債 - (現金及び現金同等物 + 手元資金運用額(*2))

(*2) 手元資金運用額は、当社グループが余剰資金の運用目的で保有する現金同等物以外の譲渡性預金・有価証券等であります。

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、売上収益減少に伴う営業債権の減少等がありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による不測の事態に備えて現金及び現金同等物を確保したこと等により、5兆1,347億円(前連結会計年度末比26億円増)となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、仕入減少に伴う営業債務の減少等がありましたが、社債及び借入金の増加等により3兆6,875億円(前連結会計年度末比62億円増)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末のリース負債を含む有利子負債は2兆5,876億円(前連結会計年度末比1,995億円増)であります。

当第1四半期連結会計期間末の資本合計は、親会社の所有者に帰属する四半期利益52億円の計上等がありましたが、配当による減少等により、1兆4,472億円(前連結会計年度末比36億円減)となりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末の親会社所有者帰属持分比率は、22.7%(前連結会計年度末比0.1ポイント減)となりました。なお、ネットD/Eレシオは、1.88(前連結会計年度末比0.09増)となりました。

(4) 経営環境と今後の見通し

当連結会計年度の業績見通しにつきましては、前連結会計年度の有価証券報告書で記載した内容から変更はありません。なお、業績見通しは、コロナ禍の収束時期が見通せない中で、当連結会計年度においても厳しい状況が続くものの第3四半期連結会計期間以降は回復傾向に転じるとの前提に基づき、各事業の需要減少リスク等について織り込んで作成しております。当第1四半期連結会計期間末において当該前提に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は274億円であります。

(6) 提出会社の従業員の状況

当第1四半期連結会計期間末の当社従業員数は、前連結会計年度末から27名増加し、193名となりました。これは、主としてグループ体制の変更により組織を改編したことによるものです。

(注) 1 当社従業員は、すべて「全社(共通)」に属しております。

2 当社従業員は、主に当社子会社からの出向者であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）において、新たに締結した重要な契約は次のとおりであります。

- ・2020年4月、三菱ケミカル㈱は、子会社の三菱ケミカルアメリカ社を通じて、ジェレスト社（米国）を買収することを決定し、三菱ケミカルアメリカ社は、ジェレスト社（米国）の支配権を有するジェレスト・インターミディエート・ホールディングス社（米国）の全株式を取得する旨の株式譲渡契約を同社株主と締結しました。詳細は、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 13.コミットメント」をご参照ください。
- ・2020年5月、大陽日酸㈱は持株会社体制へ移行するため、大陽日酸㈱を吸収分割会社とし、大陽日酸㈱が100%出資する子会社である㈱大陽日酸分割準備会社を吸収分割承継会社とする吸収分割契約を締結しました。
- ・2020年5月、三菱ケミカル㈱及び㈱生命科学インスティテュートは、㈱生命科学インスティテュートが保有するクオリカブス㈱の持株会社の全株式を三菱ケミカル㈱が承継する吸収分割契約を締結しました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000,000
計	6,000,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,506,288,107	1,506,288,107	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	1,506,288,107	1,506,288,107		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年6月30日		1,506,288		50,000		12,500

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2020年3月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 83,046,400		
	(相互保有株式) 普通株式 175,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,420,270,800	14,202,708	
単元未満株式	普通株式 2,795,807		
発行済株式総数	1,506,288,107		
総株主の議決権		14,202,708	

- (注) 1 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式18株及び相互保有株式67株(三菱ケミカル株式会社50株、三菱ウェルファーマ株式会社17株)が含まれております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」、「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ36,800株(議決権368個)及び80株含まれております。
- 3 「完全議決権株式(その他)」、「単元未満株式」の欄には、役員報酬BIP信託が保有する当社株式がそれぞれ3,183,600株及び48株含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社三菱ケミカル ホールディングス (相互保有株式)	東京都千代田区丸の内 1-1-1	83,046,400	-	83,046,400	5.51
三菱ケミカル株式会社	東京都千代田区丸の内 1-1-1	2,400	-	2,400	0.00
三菱ウェルファーマ株式 会社	大阪府大阪市中央区平野町 2-6-9	2,800	-	2,800	0.00
旗手海運株式会社	広島県尾道市西御所町 7-5	169,900	-	169,900	0.01
計		83,221,500	-	83,221,500	5.52

- (注) 1 三菱ケミカル株式会社の所有株式数は、株主名簿上は同社名義となっているものの、実質的には所有していない株式2,450株の一部であります。なお、この2,450株は、上記「(6) 議決権の状況 発行済株式」の「完全議決権株式(自己株式等)(相互保有株式)」及び「単元未満株式」の欄にそれぞれ2,400株及び50株含まれております。
- 2 三菱ウェルファーマ株式会社の所有株式数は、株主名簿上は同社名義となっているものの、実質的には所有していない株式2,817株の一部であります。なお、この2,817株は、上記「(6) 議決権の状況 発行済株式」の「完全議決権株式(自己株式等)(相互保有株式)」及び「単元未満株式」の欄にそれぞれ2,800株及び17株含まれております。
- 3 役員報酬B I P信託が保有する当社株式は、上記自己保有株式には含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」といいます。)第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
継続事業			
売上収益	4, 5	916,357	722,737
売上原価		655,494	530,925
売上総利益		260,863	191,812
販売費及び一般管理費		196,898	176,061
その他の営業収益	6	5,889	11,165
その他の営業費用	6	5,008	3,382
持分法による投資利益		5,032	188
営業利益	4	69,878	23,722
金融収益		3,991	3,129
金融費用		7,303	6,443
税引前四半期利益		66,566	20,408
法人所得税		18,144	12,177
継続事業からの四半期利益		48,422	8,231
非継続事業			
非継続事業からの四半期利益	8	469	-
四半期利益		48,891	8,231
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		37,849	5,170
非支配持分		11,042	3,061
四半期利益		48,891	8,231
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	7		
継続事業		26.33	3.64
非継続事業		0.33	-
基本的1株当たり四半期利益		26.66	3.64
希薄化後1株当たり四半期利益(円)			
継続事業		24.26	3.39
非継続事業		0.30	-
希薄化後1株当たり四半期利益		24.56	3.39

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期利益		48,891	8,231
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産		8,356	4,496
確定給付制度の再測定		642	9,800
持分法適用会社における その他の包括利益に対する持分		47	79
純損益に振り替えられることのない 項目合計		9,045	5,225
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		36,570	8,372
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動の有効部分		105	117
持分法適用会社における その他の包括利益に対する持分		2,661	584
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計		39,336	7,905
税引後その他の包括利益合計		48,381	13,130
四半期包括利益		510	21,361
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		1,984	12,555
非支配持分		1,474	8,806

(2) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		228,211	393,559
営業債権		698,516	621,426
棚卸資産		606,505	594,701
その他の金融資産		117,628	36,771
その他の流動資産		90,140	100,282
小計		1,741,000	1,746,739
売却目的で保有する資産	9	8,281	12
流動資産合計		1,749,281	1,746,751
非流動資産			
有形固定資産		1,742,216	1,748,954
のれん		616,769	623,184
無形資産		510,575	508,150
持分法で会計処理されている投資		169,958	168,077
その他の金融資産		226,488	220,405
その他の非流動資産		42,813	46,452
繰延税金資産		74,049	72,684
非流動資産合計		3,382,868	3,387,906
資産合計		5,132,149	5,134,657

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務		398,061	334,756
社債及び借入金	10	727,307	885,560
未払法人所得税		19,287	18,058
その他の金融負債		359,540	232,967
引当金		7,968	8,631
その他の流動負債		122,575	120,236
小計		1,634,738	1,600,208
売却目的で保有する資産に 直接関連する負債	9	1,761	-
流動負債合計		1,636,499	1,600,208
非流動負債			
社債及び借入金	10	1,555,947	1,598,606
その他の金融負債		88,533	88,556
退職給付に係る負債		125,611	116,839
引当金		31,893	31,088
その他の非流動負債		80,840	87,482
繰延税金負債		161,997	164,723
非流動負債合計		2,044,821	2,087,294
負債合計		3,681,320	3,687,502
資本			
資本金		50,000	50,000
資本剰余金		176,715	176,390
自己株式		63,485	63,432
利益剰余金		1,071,260	1,069,167
その他の資本の構成要素		64,268	66,585
親会社の所有者に帰属する持分合計		1,170,222	1,165,540
非支配持分		280,607	281,615
資本合計		1,450,829	1,447,155
負債及び資本合計		5,132,149	5,134,657

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本 剰余金	自己 株式	利益 剰余金
2019年4月1日残高		50,000	321,477	63,560	1,073,873
四半期利益		-	-	-	37,849
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	37,849
自己株式の取得		-	-	5	-
自己株式の処分		-	14	15	-
配当	11	-	-	-	28,398
株式報酬取引		-	77	-	-
連結子会社の株式報酬取引		-	-	-	-
支配継続子会社に対する 持分変動		-	783	-	-
企業結合または事業分離		-	2,198	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	351
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	874
所有者との取引額等合計		-	1,478	10	28,921
2019年6月30日残高		50,000	322,955	63,550	1,082,801

	注記	その他の資本の構成要素				合計	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
		その他の 包括利益を 通じて 公正価値で 測定する 金融資産	確定給付 制度の 再測定	在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジの 公正価値の 純変動の 有効部分				
2019年4月1日残高		51,500	-	55,530	187	3,843	1,377,947	647,907	2,025,854
四半期利益		-	-	-	-	-	37,849	11,042	48,891
その他の包括利益		6,788	927	28,018	132	35,865	35,865	12,516	48,381
四半期包括利益		6,788	927	28,018	132	35,865	1,984	1,474	510
自己株式の取得		-	-	-	-	-	5	-	5
自己株式の処分		-	-	-	-	-	1	-	1
配当	11	-	-	-	-	-	28,398	14,953	43,351
株式報酬取引		-	-	-	-	-	77	-	77
連結子会社の株式報酬取引		-	-	-	-	-	-	3	3
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	783	576	1,359
企業結合または事業分離		-	-	-	-	-	2,198	3,292	5,490
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	351	476	827
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		53	927	-	-	874	-	-	-
所有者との取引額等合計		53	927	-	-	874	26,559	11,758	38,317
2019年6月30日残高		44,659	-	83,548	55	38,834	1,353,372	634,675	1,988,047

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本 剰余金	自己 株式	利益 剰余金
2020年4月1日残高		50,000	176,715	63,485	1,071,260
四半期利益		-	-	-	5,170
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	5,170
自己株式の取得		-	-	2	-
自己株式の処分		-	8	55	-
配当	11	-	-	-	17,045
株式報酬取引		-	105	-	-
支配継続子会社に対する 持分変動		-	228	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	80
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	9,702
所有者との取引額等合計		-	325	53	7,263
2020年6月30日残高		50,000	176,390	63,432	1,069,167

その他の資本の構成要素

	注記	その他の 包括利益を 通じて 公正価値で 測定する 金融資産	確定給付 制度の 再測定	在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジの 公正価値の 純変動の 有効部分	合計	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2020年4月1日残高		38,335	-	102,773	170	64,268	1,170,222	280,607	1,450,829
四半期利益		-	-	-	-	-	5,170	3,061	8,231
その他の包括利益		5,550	9,751	3,090	94	7,385	7,385	5,745	13,130
四半期包括利益		5,550	9,751	3,090	94	7,385	12,555	8,806	21,361
自己株式の取得		-	-	-	-	-	2	-	2
自己株式の処分		-	-	-	-	-	63	-	63
配当	11	-	-	-	-	-	17,045	5,262	22,307
株式報酬取引		-	-	-	-	-	105	-	105
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	228	2,482	2,710
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	80	54	26
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		49	9,751	-	-	9,702	-	-	-
所有者との取引額等合計		49	9,751	-	-	9,702	17,237	7,798	25,035
2020年6月30日残高		32,834	-	99,683	264	66,585	1,165,540	281,615	1,447,155

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	66,566	20,408
非継続事業からの税引前四半期利益	680	-
減価償却費及び償却費	59,640	59,576
持分法による投資損益(は益)	5,032	188
固定資産除売却損	1,332	1,038
減損損失	960	76
固定資産売却益	1,027	8,133
関係会社株式売却益	396	909
受取利息及び受取配当金	3,908	2,977
支払利息	6,460	5,949
営業債権の増減額(は増加)	40,520	79,627
棚卸資産の増減額(は増加)	5,174	12,563
営業債務の増減額(は減少)	18,338	65,235
退職給付に係る資産及び負債の増減額	1,122	1,238
その他	11,267	19,102
小計	132,138	83,931
利息の受取額	647	492
配当金の受取額	13,983	8,778
利息の支払額	6,611	6,547
法人所得税の支払額又は還付額 (は支払)	36,450	16,536
営業活動によるキャッシュ・フロー	103,707	70,118
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	54,735	58,686
有形固定資産の売却による収入	1,626	12,508
無形資産の取得による支出	1,313	1,849
投資の取得による支出	115,355	1,104
投資の売却及び償還による収入	125,102	65,155
子会社の取得による支出	1,429	3
子会社の売却による収入	1,015	1,886
定期預金の純増減額(は増加)	564	5,289
その他	1,691	470
投資活動によるキャッシュ・フロー	47,344	22,726

(単位：百万円)

注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	66,827	82,587
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (は減少)	28,000	67,000
長期借入れによる収入	54,042	51,144
長期借入金の返済による支出	20,185	42,961
社債の発行による収入	29,812	49,753
社債の償還による支出	25,000	10,000
リース負債の返済による支出	8,218	7,087
自己株式の純増減額(は増加)	4	2
配当金の支払額	28,398	17,045
非支配持分への配当金の支払額	14,966	5,316
非支配持分からの子会社持分取得による 支出	1,354	95,795
その他	1	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	109,097	72,277
現金及び現金同等物に係る為替変動による 影響	7,654	36
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	60,388	165,157
現金及び現金同等物の期首残高	321,541	228,211
売却目的で保有する資産への振替に伴う 現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,294	49
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物 の増減額(は減少)	606	123
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	19
現金及び現金同等物の四半期末残高	259,465	393,559

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

株式会社三菱ケミカルホールディングス(以下「当社」といいます。)は日本国に所在する企業であり、東京証券取引所市場第一部に上場しております。当社の登記している本社の住所は、ホームページ(<https://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>)で開示しております。当社グループの連結財務諸表は3月31日を期末日とし、当社及び子会社並びにその関連会社及び共同支配の取決めに対する持分により構成されております。当社グループは、主に「機能商品」、「素材」、「ヘルスケア」の3分野で事業を展開しており、その詳細は注記「4. 事業セグメント」に記載しております。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。当社は四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしていることから、同93条の規定を適用しております。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

(2) 連結財務諸表の承認

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、2020年8月11日に、代表執行役執行役社長 越智仁及び執行役常務最高財務責任者 伊達英文によって承認されております。

(3) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(4) 表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を四捨五入して表示しております。

(5) 判断、見積り及び仮定の利用

当社グループの要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行う必要があります。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は、継続して見直されます。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りが変更された会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識されます。

当社グループの要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

当第1四半期連結累計期間において見積りを行う上での特に重要な仮定は下記のとおりであります。

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)

当初中国で発生し、2020年3月において欧米を中心に急速に拡大した新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により経済活動が抑制され、需要が落ち込んでおります。

コロナ禍の収束時期等が見通せない中で、当連結会計年度中はその影響が継続するものの第3四半期連結会計期間以降は回復傾向に転じるとの前提に基づき、前連結会計年度末において、繰延税金資産の評価における将来の課税所得やのれんの減損テストにおける将来キャッシュ・フローなどの見積りを行いました。

当第1四半期連結会計期間末において当該仮定に重要な変更はなく、減損の兆候を認識しておりません。また、繰延税金資産の回収可能性についても前連結会計年度時点の判断の見直しは不要であると判断しております。

3. 重要な会計方針

当社グループが要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、各四半期における法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しております。

4. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。なお、報告にあたって事業セグメントの集約は行っておりません。

当社グループは、持株会社である当社のもと、三菱ケミカル(株)、田辺三菱製薬(株)、(株)生命科学インスティテュート及び大陽日酸(株)の4事業会社を中心に事業活動を行っている4つの事業領域、「機能商品」、「ケミカルズ」、「産業ガス」及び「ヘルスケア」を報告セグメントとしております。

各報告セグメントの事業内容は、以下のとおりであります。

分野	報告セグメント	セグメント内訳		
		事業内容		
機能商品	機能商品	機能部材	情電・ディスプレイ	光学フィルム、ディスプレイ・半導体関連製品
			高機能フィルム	包装フィルム、工業フィルム
			環境・生活ソリューション	アクア・分離ソリューション、 インフラ・アグリマテリアルズ
			高機能成形材料	高機能エンジニアリングプラスチック、 繊維、炭素繊維複合材料、機能成形複合材、 アルミナ繊維・軽金属
		機能化学	高機能ポリマー	パフォーマンスポリマーズ、エンジニアリング ポリマーズ、サステイナブルリソース
			高機能化学	機能化学品、機能材料、食品機能材
			新エネルギー	リチウムイオン電池材料、 エネルギー変換部材
素材	ケミカルズ	MMA	MMA	MMA
		石化	石化	石化基盤、ポリオレフィン、基礎化学品
		炭素	炭素	炭素
	産業ガス	産業ガス	産業ガス	産業ガス
ヘルスケア	ヘルスケア	ヘルスケア	医薬品	医薬品
			ライフサイエンス	ライフサイエンス

報告セグメントの会計方針は、注記「3. 重要な会計方針」に記載している当社グループの会計方針と同一であります。なお、セグメント間の取引は、主に市場実勢価格に基づいております。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結
	機能商品	ケミカルズ	産業ガス	ヘルスケア	計				
売上収益									
外部収益	276,626	284,003	208,614	107,879	877,122	39,235	916,357	-	916,357
セグメント間 収益	15,969	12,876	1,715	204	30,764	41,324	72,088	72,088	-
合計	292,595	296,879	210,329	108,083	907,886	80,559	988,445	72,088	916,357
セグメント損益 (コア営業利益) (注3)	19,555	20,558	21,090	9,241	70,444	1,890	72,334	2,275	70,059

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものはエンジニアリング、運送及び倉庫業であります。
- 2 セグメント損益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,651百万円及びセグメント間消去取引376百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない基礎的試験研究費等であります。
- 3 セグメント損益は、営業利益（又は損失）から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出したコア営業利益で表示しております。
- 4 当社は、2020年3月期において㈱LSIメディエンス及びその子会社等の事業を非継続事業に分類しており、セグメント情報は非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結
	機能商品	ケミカルズ	産業ガス	ヘルスケア	計				
売上収益									
外部収益	225,148	181,136	182,928	100,234	689,446	33,291	722,737	-	722,737
セグメント間 収益	12,072	11,762	1,575	203	25,612	40,523	66,135	66,135	-
合計	237,220	192,898	184,503	100,437	715,058	73,814	788,872	66,135	722,737
セグメント損益 (コア営業利益) (注3)	9,952	16,055	13,459	8,772	16,128	1,998	18,126	3,116	15,010

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものはエンジニアリング、運送及び倉庫業であります。
- 2 セグメント損益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,925百万円及びセグメント間消去取引 191百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない基礎的試験研究費等であります。
- 3 セグメント損益は、営業利益（又は損失）から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出したコア営業利益で表示しております。
- 4 当第1四半期連結会計期間より、一部の事業及び連結子会社の所管セグメントを見直しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の区分方法により作成しております。

セグメント損益から、税引前四半期利益への調整は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
セグメント損益	70,059	15,010
固定資産売却益	890	8,091
関係会社株式売却益	396	909
固定資産除売却損	604	174
減損損失	714	54
その他	149	60
営業利益	69,878	23,722
金融収益	3,991	3,129
金融費用	7,303	6,443
税引前四半期利益	66,566	20,408

5. 売上収益

当社グループは、持株会社である当社のもと、三菱ケミカル(株)、田辺三菱製薬(株)、(株)生命科学インスティテュート及び大陽日酸(株)の4事業会社を中心に4つの事業領域(「機能商品」、「ケミカルズ」、「産業ガス」及び「ヘルスケア」)において事業活動を行っており、海外売上比率の向上を主要経営施策の1つとして、その進捗状況を取締役に定期的に報告しております。販売仕向先の所在地により区分した売上収益と注記「4. 事業セグメント」で記載しているセグメント売上収益との関連は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア		北米	欧州	その他	合計
		(内、中国)					
機能商品	139,237	52,833	(22,510)	42,233	39,874	2,449	276,626
ケミカルズ	177,265	65,966	(23,005)	17,992	20,631	2,149	284,003
産業ガス	86,396	29,321	(4,098)	47,470	45,115	312	208,614
ヘルスケア	84,537	7,053	(2,179)	9,442	6,331	516	107,879
その他	21,182	14,181	(10,741)	680	3,067	125	39,235
合計	508,617	169,354	(62,533)	117,817	115,018	5,551	916,357

- (注) 1 金額は外部顧客からの売上収益で表示しております。
2 売上収益は、そのほとんどが顧客との契約から認識した収益であり、その他の源泉から認識した収益に重要性はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア		北米	欧州	その他	合計
		(内、中国)					
機能商品	119,697	43,948	(21,264)	29,985	30,371	1,147	225,148
ケミカルズ	113,412	41,119	(21,307)	12,759	12,778	1,068	181,136
産業ガス	77,363	26,676	(5,194)	41,935	36,726	228	182,928
ヘルスケア	79,771	6,119	(1,358)	8,849	5,130	365	100,234
その他	18,646	11,861	(9,614)	945	1,751	88	33,291
合計	408,889	129,723	(58,737)	94,473	86,756	2,896	722,737

- (注) 1 金額は外部顧客からの売上収益で表示しております。
2 売上収益は、そのほとんどが顧客との契約から認識した収益であり、その他の源泉から認識した収益に重要性はありません。

当社グループの事業における製品販売については、製品の引渡時点において、顧客が当該製品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断し、当該製品の引渡時点で収益を認識しております。また、収益は、顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品などを控除した金額で測定しております。なお、製品の販売契約における対価は、製品に対する支配が顧客に移転した時点から概ね1年以内に回収しており、重要な金利要素は含んでおりません。

上記の製品販売に加えてロイヤリティ等収入がありますが、ヘルスケアセグメントの医薬品事業におけるノバルティス・ファーマ社(スイス)に導出した多発性硬化症治療剤「ジレニア」のロイヤリティ収入については、2019年2月に仲裁手続きに入ったため、ロイヤリティ収入の一部について、IFRS第15号に従い売上収益の認識を行わないこととしました。当第1四半期連結累計期間におきましても、仲裁手続きが継続しているため、引き続き、売上収益の認識を行っておりません。なお、この売上収益の認識を行わない部分につきましてはその他の非流動負債に計上しており、仲裁終了時に、その結果に応じて一括して収益認識されることとなります。

6. その他の営業収益及びその他の営業費用

その他の営業収益の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
固定資産売却益 (注)	1,027	8,133
関係会社株式売却益	396	909
受取賃貸料	564	593
受取保険金	1,474	111
その他	2,428	1,419
合計	5,889	11,165

(注) 当第1四半期連結累計期間の固定資産売却益には田辺三菱製薬㈱の戸田事業所の売却益が含まれております。

その他の営業費用の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
固定資産除売却損	1,328	1,038
減損損失	960	76
その他	2,720	2,268
合計	5,008	3,382

7. 1 株当たり四半期利益

基本的及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

(1) 基本的1株当たり四半期利益

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
基本的1株当たり四半期利益の計算に 使用する四半期利益(百万円)		
親会社の所有者に帰属する 継続事業からの四半期利益	37,383	5,170
親会社の所有者に帰属する 非継続事業からの四半期利益	466	-
親会社の所有者に帰属する四半期利益	37,849	5,170
期中平均普通株式数(千株)	1,419,898	1,420,094
基本的1株当たり四半期利益(円)		
継続事業	26.33	3.64
非継続事業	0.33	-
基本的1株当たり四半期利益	26.66	3.64

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に 使用する四半期利益(百万円)		
基本的1株当たり四半期利益の計算に 使用する継続事業からの四半期利益	37,383	5,170
四半期利益調整額	71	70
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に 使用する継続事業からの四半期利益	37,454	5,240
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に 使用する非継続事業からの四半期利益	466	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に 使用する四半期利益	37,920	5,240
希薄化後の期中平均普通株式数(千株)		
期中平均普通株式数	1,419,898	1,420,094
希薄化効果を有する潜在的普通株式の影響		
転換社債型新株予約権付社債	122,565	124,605
株式報酬	1,437	1,305
希薄化後の期中平均普通株式数	1,543,900	1,546,004
希薄化後1株当たり四半期利益(円)		
継続事業	24.26	3.39
非継続事業	0.30	-
希薄化後1株当たり四半期利益	24.56	3.39

(注) 基本的及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定上、役員報酬B I P信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

8. 非継続事業

(1) 非継続事業の概要

ヘルスケアセグメントにおける当社の連結子会社である(株)生命科学インスティテュートは、国内外でヘルスケア関連事業を展開するPHCホールディングス(株)（以下「PHCHD」といいます。）との間で、戦略的資本提携について2019年5月14日付で合意し、同社が保有する(株)LSIメディエンス（以下「LSIM」といいます。）の全株式を、PHCHDの一部の株式と株式交換することを決定し、2019年8月1日に当該株式交換を実施いたしました。これに伴いLSIM及びその子会社等の事業に関わる損益を、前第1四半期連結累計期間において非継続事業に分類しております。

(2) 非継続事業の損益

要約四半期連結損益計算書における非継続事業からの四半期利益の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
収益	21,241	-
費用	20,561	-
非継続事業からの税引前四半期利益	680	-
法人所得税	211	-
非継続事業からの四半期利益	469	-

(3) 非継続事業に係るキャッシュ・フロー

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書に含まれている非継続事業に係るキャッシュ・フローは以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,178	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,115	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	753	-
合計	2,310	-

9. 売却目的で保有する資産

売却目的で保有する資産及びそれに直接関連する負債の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
売却目的で保有する資産		
現金及び現金同等物	49	-
営業債権	660	-
棚卸資産	1,029	-
有形固定資産	6,047	2
その他の金融資産	83	10
その他	413	-
合計	8,281	12
売却目的で保有する資産に直接関連する負債		
営業債務	102	-
その他の金融負債	152	-
その他	1,507	-
合計	1,761	-

前連結会計年度末において売却目的で保有する資産とそれに直接関連する負債は、主にヘルスケアセグメントにおける当社の連結子会社である田辺三菱製薬(株)の戸田事業所について不動産売買契約を締結したことによるものであります。

なお、田辺三菱製薬(株)の戸田事業所については、売却費用控除後の公正価値(売却予定価額)が帳簿価額を上回っているため、当該資産は帳簿価額で測定しております。当該資産は2020年4月24日付で売却を完了しております。

前連結会計年度末及び当第1四半期連結会計期間末において、売却目的で保有する資産に関連するその他の資本の構成要素に重要性はありません。

10. 社債

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

償還した社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

銘柄	期間	利率	償還金額
(株)三菱ケミカルホールディングス			
第13回無担保社債	2014年 - 2019年	0.319%	25,000

発行した社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

銘柄	期間	利率	発行総額
(株)三菱ケミカルホールディングス			
第29回無担保社債	2019年 - 2029年	0.330%	10,000
第30回無担保社債	2019年 - 2039年	0.830%	12,000
第31回無担保社債	2019年 - 2049年	1.214%	8,000

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

償還した社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

銘柄	期間	利率	償還金額
(株)三菱ケミカルホールディングス			
第8回無担保社債	2013年 - 2020年	0.948%	10,000

発行した社債は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

銘柄	期間	利率	発行総額
(株)三菱ケミカルホールディングス			
第35回無担保社債	2020年 - 2025年	0.190%	25,000
第36回無担保社債	2020年 - 2030年	0.400%	15,000
第37回無担保社債	2020年 - 2040年	0.830%	10,000

11. 配当

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月22日 取締役会	普通株式	28,463	20	2019年3月31日	2019年6月4日

(注) 配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金66百万円が含まれております。

(2) 基準日が前第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月26日 取締役会	普通株式	17,079	12	2020年3月31日	2020年6月10日

(注) 配当金総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式(付与済の累積ポイント数に相当する株式を除きます。)に対する配当金34百万円が含まれております。

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

12. 金融商品

金融商品の公正価値

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

レベル1： 同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格により測定された公正価値

レベル2： レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3： 重要な観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

金融商品のレベル間の振替は、期末日ごとに判断しております。なお、前連結会計年度及び当第1四半期連結累計期間において、レベル間の重要な振替が行われた金融商品はありません。

経常的に公正価値で測定する金融商品

公正価値で測定している金融資産及び金融負債は、以下のとおりであります。

前連結会計年度(2020年3月31日)

(単位：百万円)				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	75,050	-	117,431	192,481
売却目的で保有する 株式及び出資金	20	-	11	31
デリバティブ資産	-	169	-	169
合計	75,070	169	117,442	192,681
負債				
デリバティブ負債	-	1,275	-	1,275
合計	-	1,275	-	1,275

当第1四半期連結会計期間(2020年6月30日)

(単位：百万円)				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	82,885	-	103,831	186,716
売却目的で保有する 株式及び出資金	-	-	10	10
デリバティブ資産	-	310	-	310
合計	82,885	310	103,841	187,036
負債				
デリバティブ負債	-	195	-	195
合計	-	195	-	195

株式及び出資金

レベル1に分類される市場性のある株式の公正価値は、同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格によっております。

レベル3に分類される活発な市場における公表価格が入手できない非上場株式及び出資金の公正価値は、合理的に入手可能なインプットにより、類似企業比較法又はその他の適切な評価技法を用いて算定しております。なお、必要に応じて一定の非流動性ディスカウント等を加味しております。

デリバティブ資産及びデリバティブ負債

レベル2に分類されるデリバティブ資産及びデリバティブ負債の公正価値は、取引先金融機関から提示された価格、又は為替レート及び金利等の観察可能なインプットに基づき算定しております。

レベル3に分類される金融商品は、適切な権限者に承認された公正価値測定に係る評価方法を含む評価方針及び手続に従い、評価者が各対象金融商品の評価方法を決定し、公正価値を算定しております。その結果は適切な権限者がレビュー及び承認しております。

レベル3に分類された金融商品の増減は、以下のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
期首残高	84,173	117,442
その他の包括利益 (注)	5,066	14,197
購入	843	1,079
売却・償還	9	63
その他の増減	1,181	420
期末残高	78,760	103,841

(注) 要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれております。

償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定している金融資産及び金融負債の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。

前連結会計年度(2020年3月31日)

	帳簿価額	公正価値			合計
		レベル1	レベル2	レベル3	
資産					
債券	50,000	-	-	49,960	49,960
合計	50,000	-	-	49,960	49,960
負債					
長期借入金	1,075,877	-	1,094,455	-	1,094,455
社債	690,602	-	695,108	-	695,108
合計	1,766,479	-	1,789,563	-	1,789,563

当第1四半期連結会計期間(2020年6月30日)

	帳簿価額	公正価値			合計
		レベル1	レベル2	レベル3	
負債					
長期借入金	1,086,558	-	1,104,560	-	1,104,560
社債	730,751	-	734,356	-	734,356
合計	1,817,309	-	1,838,916	-	1,838,916

償却原価で測定する金融資産及び金融負債については、債券、長期借入金及び社債を除いて、公正価値は帳簿価額と合理的に近似しております。

債券

レベル3に分類される劣後債等の債券の公正価値は、取引先金融機関から提示された価格を参照し算定しております。

長期借入金

レベル2に分類される長期借入金の公正価値は、元利金の合計額を、新規に同様の借入れを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値に基づき算定しております。

社債

レベル2に分類される社債の公正価値は、市場価格に基づき算定しております。

13. コミットメント

(三菱ケミカルアメリカ社によるジェレスト社の買収)

当社の連結子会社である三菱ケミカル㈱は、子会社の三菱ケミカルアメリカ社を通じて、米国でSiケミカルや金属化合物を手掛けるメーカー、ジェレスト社を買収することを決定しました。三菱ケミカルアメリカ社は、ジェレスト社の支配権を有するジェレスト・インターミディエート・ホールディングス社の全株式を取得する旨の株式譲渡契約を、2020年4月30日に同社株主と締結しました。当該締結日より6か月以内をめどに買収を完了する予定です。

ジェレスト社の広範なSiケミカル、金属化合物などの知見と当社グループの技術、経営資源、顧客ネットワーク等を組み合わせることで、提供可能なソリューションの幅を大きく拡充できるものと考えております。

ジェレスト社の概要

社名	Gelest, Inc.
所在地	米国・ペンシルバニア州（本社及び工場）
設立	1991年
社員数	約240名（2019年7月1日現在）
事業内容	Siケミカルズ、特殊アクリレート、有機金属化合物などの開発・製造・販売

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月11日

株式会社三菱ケミカルホールディングス

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中	村	和	臣	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	植	木	貴	幸	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川	端	孝	祐	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岡	部		誠	印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社三菱ケミカルホールディングスの2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、株式会社三菱ケミカルホールディングス及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半

期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。